

年頭所感



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、新ミレニアム 西暦二〇〇〇年をお健やかにお迎えになつたことと存じます。二十世紀への助走ともなるべき今年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

沖縄の新春は天候に恵まれ、暖かな日々となりましたが、この明るさがこれからも続くことを強く期待するとともに、そのために私も沖縄総合事務局としても精一杯の努力を行つていくことをお誓いしたいと思います。

二〇〇〇年は、昨年末のいわゆるY2Kコンピュータ二〇〇〇年問題）に対応するための危機管理態勢の下で幕が開き、沖縄総合事務局におきまして、私以下多くの職員が年末年始を返上して待機いたしました。幸いにも県内はもとより全国的、世界的にも大きなトラブルは発生せず、社会のシステムは正常に稼働しておりますが、このY2K問題は、はしなくもコンピュータが現代社会において単に二国のみでなく地球規模の広がりをもつてほとんど全ての社会システムに関与していることをよく解らせてくれました。

これに限らず、今日の社会は国家の枠を越え、地球全体の中で複雑に絡み合いながら動いています。しかし、そのような中でも、私たちが日々生活している地域社会は現に存在しているわけですし、そこをいかに住みよく、活力あるものにしていくかということは、グローバル化が叫ばれる時代にあつても常に考えていかなければならない大きな課題です。

私達が住む沖縄は世界からみればちっぽけな存在かも知れませんが、ここを素晴らしい地域とすることによつて、世界の中の沖縄の展望が開かれるものと信じます。

そのためにはなすべきことは多々ありますが、ここでは、沖縄総合事務局としても取り組まねばならない今年の三つの課題について触れていくこととします。

一つは言つまでもなく七月に開催されるG8の首脳会議(サミット)です。サミット自体は数日間の会合に過ぎませんが、この会議の注目度、重要度は幾多の国際会議中トップのものであり、開催地の知名度も飛躍的に向上するということは歴史が証明しています。

我が国有数のリゾート・コンベンション地域としての沖縄を全世界に発信する場としてサミットほどふさわしいものはないでしょう。しかし、このことは逆に沖縄にとつて不利な情報が発信されたときの影響は甚大なものになるといふことでもあります。心を引き締めて、万全の態勢で臨む必要があります。

次に昨年来示されている政府の沖縄振興策についてです。六月に出された「沖縄経済振興二十一世紀プラン」中間報告及び年末に決定された北部振興策は、これからの沖縄の経済、社会の進むべき方向性を示したものであり、これらの着実な実施により、かねてから言われてきた沖縄経済の自立やフランスのとれた地域発展が進むものと考えています。無論、地域社会の発展にはそこに住む人々の主体的な努力が大切なこととすし、「自立」の真の意味もそこにあると思います。私たちは、自立に向けた環境の整備に全力で取り組みます。

さて、現行の第三次沖縄振興開発計画(三次振計)は、平成十三年度で計画期間が終了しますが、その後の振興開発の在り方をどう考えるかその前提として三次振計の成果をどう把握するか、といった検討も進めなければなりません。このための作業が沖縄開発庁を中心に沖縄県、それに当事務局でも行われています。この結果を踏まえて二十世紀の沖縄振興のマスタープランが作られていくことになるでしょう。

二〇〇〇年の課題は以上申し上げたものに限りませんが、私達沖縄総合事務局は、沖縄開発庁の出先機関としての最後の(来年月からは内閣府の機関となります。)に当たり、同の総力を挙げて任務を果たしてまいります。

皆様方の変わらぬ御支援をお願い申し上げます。



沖縄総合事務局長
小山 裕